

リレーインタビュー

大口町で活躍する社長さんをリレー形式でご紹介いただき、住民有志のおおぐち宣伝部が、大口町にある企業の素晴らしさと、社長さんの人柄をご紹介します企画です。



まず安全に一日を過ごすことが第一

株式会社 尾北福祉センター

取締役社長 安藤成治さん

Profile

昭和 35 年生まれ 大口町上小口在住

創業 昭和 38 年 11 月 従業員数 26 名
大口町秋田四丁目 7 番地 1

どんな仕事をしている会社ですか？

クリーニング業、老人ホーム・鉄道会社の宿泊施設のシーツや枕カバーの洗濯をメインとして、倉庫業、工場や事務所の清掃業務、マットのレンタルの仲介業務などをおこなっています。この工場では、一日約5,500枚のクリーニングをしています。連洗(連続洗濯機)・単洗(単独洗濯機)を所有しており、多様な受注に対応できます。



会社のスター！

工場長の小林さん。工場の中で、機械のメンテナンス、修理までこなし、なくてはならない存在です。



苦労したこと

みなさんと同じように、コロナの影響で、宿泊施設からの仕事が激減したことで、一番忙しい夏の時期に工場内で感染者が増えて、工場の稼働が危ぶまれたことがありました。

社長の自慢！

多種多様な素材のクリーニングをしており、ちょっと見ただけでは区別のつかないものもありますが、ベテランの方は、手触りだけで判別できます。また、機械にセットする位置やタイミングも、経験により瞬時に判断できることは素晴らしい技術だと思います。

大切にしていること

まず、安全。社員の内、8名が障がい者の方で、不調や不具合をうまく表現できないこともあります。安全に一日を過ごしてほしいということが第一です。また、さまざまな種類の物を扱うので、間違いのないように、きちっと汚れが落ちるように、昼礼などで、仕事の注意点を確認するようにしています。

また、会社のスローガン「みんなで助けあう」にあるように、常にみんなが障がいのある方のサポートをしながら仕事をする事を心掛けるようにしています。



社長のライフワーク 伝統芸能保存会

ライフワークとして、大口町の伝統芸能を守る活動をしています。具体的には、神事の際におこなう獅子屋形のお囃子で、笛を担当しています。

大口町制40周年では、伝統芸能を保存しようという動きがありましたが、活動していた団体も、高齢化で活動できなくなってしまい、お囃子は、上小口、中小口、豊田の3区のみになってしまいました。

犬山や岩倉など、からくりなどで観光としてPRできるものと違い、神事の際に関係者だけでおこなっているので認知度が低いです。しかし、大口町の伝統として、残していかななくてはいけないものだと思います。みなさんに興味を持っていただき、大切な伝統を守っていきたく強く思っています。

